

FPがアドバイスするアセットアロケーションは正しいのか？

FP教育研究所主催継続教育セミナー

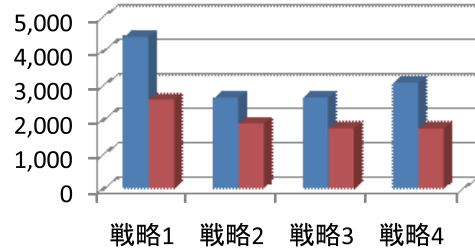
使用したモデル

使用したモデルは、従来の1期間モデルではなく、数十年を対象とした多期間モデル。

	平均分散アプローチ	1期間モデル	通常
ケース1	モンテカルロ・シミュレーション	多期間モデル	初期投資のみ
ケース2	モンテカルロ・シミュレーション	多期間モデル	初期投資+無リスク
ケース3	モンテカルロ・シミュレーション	多期間モデル	継続投資+機械的収支
ケース4	モンテカルロ・シミュレーション	多期間モデル	継続投資+モデル世帯(受動)
ケース5	モンテカルロ・シミュレーション	多期間モデル	継続投資+モデル世帯(受動)+無リスク
ケース6	モンテカルロ・シミュレーション	多期間モデル	継続投資+モデル世帯(能動)+無リスク

ケース1&ケース2

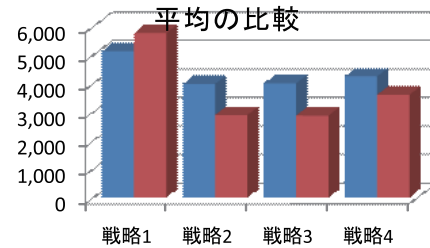
無リスク資産を投資対象に含めると変動の幅が小さくなります



■ 無リスク資産なし ■ 無リスク資産あり

ケース3

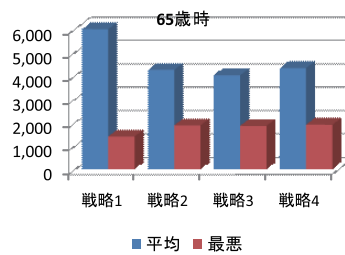
60歳まで毎年100万円ずつ積み立て、その後、毎年100万円ずつ取り崩し



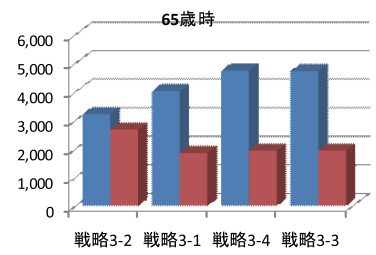
■ 65歳時 ■ 90歳時

ケース4&5

実際のライフプランを考える

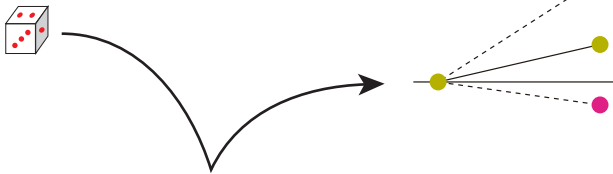


■ 平均 ■ 最悪

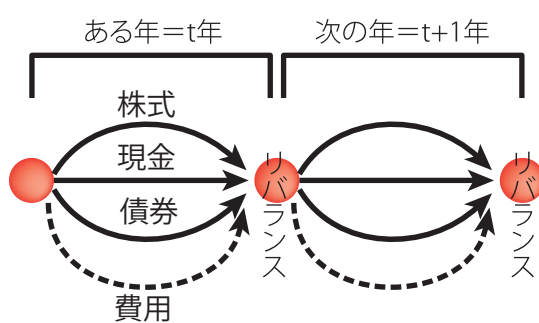


■ 平均 ■ 最悪

モンテカルロ・シミュレーションの仕組み



多期間モデルのイメージ

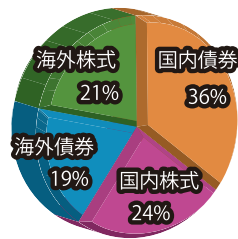


$$Aset_t = \sum_{i=0}^4 r_i \times Aset_{t-1} \times Weight_{t,i} - Exp_t$$

$$Exp_t = \sum_{j=1}^m Exp_{t,j}$$

$i = \begin{cases} 0 & \text{無リスク資産} \\ 1 & \text{日本債券} \\ 2 & \text{日本株式} \\ 3 & \text{外国債券} \\ 4 & \text{外国株式} \end{cases}$

戦略1	日本株式のみに投資
戦略2	日本株式と日本債券に50%ずつ
戦略3	右記の配分比率
戦略4	日本・外国/株式・債券に25%ずつ



- ✓ アセットアロケーションの優劣で、資産運用の成果に大きな差異が生じると考えるのは正しくない
- ✓ 大切なことはリバランスを行っておくこと
- ✓ どれだけの資産を継続的に投資に向けられるかは重要なポイント
- ✓ 積立期間はリスクを採った投資が可能
- ✓ これらをコントロールできるのは、資産運用ではなく、負債サイド。つまり、ライフプランの話